

今回の企画展では静岡県指定文化財をはじめとした福田半香作品を中心に、渡辺華山の自決脇差・椿椿山筆渡辺華山像（いずれも重要文化財）など、51点を公開します。

渡辺華山の弟子である福田半香は、花鳥画よりも山水画を多く描き得意としたといわれていますが、花鳥画にもすばらしい作品を残しています。また、中国の画家の作品を模写し、勉強したことがわかる作品も残っています。師匠である村松以弘（1786～1839年）・勾田台嶺（1850年代）に学んだ若きころの時代、華山のもとで学んだ時代、華山の死により画風が変化した時代、半香独自の画風が確立した晩年と、半香の作品を鑑賞し、半香の人生のあゆみに思いを馳せます。

なお、会期中には作品の展示替を行います。

日常から離れ、静かな空間へ

平成18年 田原市博物館 秋の企画展

福田半香展

FUKUDA HANKO

福田半香（ふくだはんこ）1804～1864（は遠州見付宿現静岡県磐田市）に生まれた画家です。天保4年（1833）4月、彼が30歳の時、田原に来ていた渡辺華山（わたなべかざん）を訪ね、翌年江戸に出て改めて華山門に入りました。そこで、同門の椿椿山（つばきぢん）（1801～1854）が花卉に巧みであったので半香は山水画に心を注ぎ、元明諸家の法を深く究めました。また、蚕社（かいしや）の獄（い）で田原塾居（たはらじゅく）となった華山を心配し、半香は画を売るための頒布会（はんぷかい）を開きました。しかし、逆に華山の自殺（じく）の原因となりました。半香は悔（く）やみ、私は師（し）の窮乏（きゆうぱん）を救おうとして、かえって師（し）を災厄（さいあく）に陥（おと）らしてしまいました。地下で謝罪（せんざい）するのだと華山（わさん）の菩提寺（ぼだいじ）である小石川（せいしかわ）富坂下（とみさか）善雄寺（ぜんゆうじ）（現東京都文京区小石川）に埋葬（まいじょう）しました。



渡辺華山 重要文化財 自筆表しつぽひよ（1841）田原市博物館蔵



福田半香 「西園雅集図」せいえんがしゅうず（1843）浜松市美術館蔵



福田半香 「蘭天水仙図」らんでんすいせんず（1854）個人蔵



福田半香 「富貴金盞図」ふうききんざんず（1854）個人蔵

2006.9.15(金) — 10.22(日)

休館日 / 毎週月曜日

ただし、9月20日・10月9日は祝日のため開館し、
9月19日・10月20日は休館します。
9月12日～9月14日、10月24日～26日は展示替のため休館します。

開館時間 / 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料 / 一般600円（480円） 小・中学生以下は無料
（ ）内は20名以上の団体割引料金です。

10月1日、10月11日（華山大祭）は無料公開します。

主催 田原市博物館・財団法人華山会・中日新聞社
後援 愛知県教育委員会・田原市教育委員会NHK名古屋放送局・
豊橋ケーブルネットワーク株式会社・株式会社エフエム豊橋

田原市博物館